

# 続報：会津テラス計画 2024年10月の状況

－ブナ林、さらに切られる－

会津テラス計画の工事については、随時報告してきた。簡単に説明すると「磐梯連峰赤埴山の頂部に巨大なレストハウスを作り、山麓との間を巨大なゴンドラリフトで結ぶ」という計画である。さらに、「レストハウスは噴火等の緊急時の待避所とし、ここから登山者の避難道も建設する」というものである。そくほう 806号では、避難道の計画区（以下、避難道区）において、2023年11月に樹木が伐採され、建設が始まったことを報告した。伐採地は、赤埴林道のつづら折れ部の西端標高約1175m（以下、赤埴林道西端部）から西に延びる東西約400mの地域である。そくほう 813号では、2024年春の惨状を報告した。この時点では、赤埴林道西端部から西方約400m地点（以下、西400m地点）より更に西の区域は、下草の伐採だけで樹木の伐採はなかった。

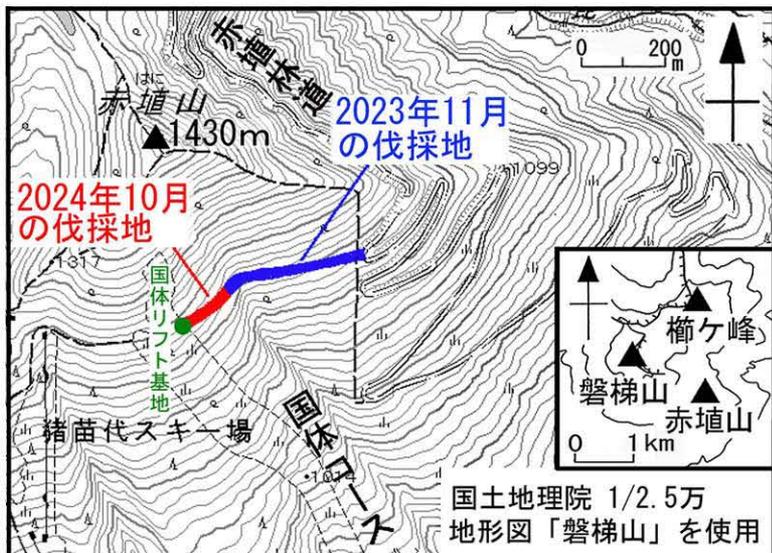
10月19日、山麓から赤埴山を見ると様子が違っていった。避難道区の中で、西400m地点より西の区域が「直線状に黒く」見えた（地図の赤字部分）。これを受け、2024年10月20日に現地調査を行ったので報告する。そくほう 813号で報告した赤埴林道西端部から西400m地点間（伐採地）では、クマザサが繁茂し、噴石落下孔は不明瞭になっていた。さらに西400m地点から猪苗代スキー場国体コース上端のリフト基地（以下、国体リフト基地）までの区域で、樹木が伐採されていた（写真）。伐採地は、東西約150m、幅は斜面なりに約25～40m、斜面傾斜は35～45度であった。ここは避

難道区の東側より斜面傾斜がきつく、水平方向に歩くのは困難であった。実際に私は斜面を2度滑り落ちた。特に急傾斜の部分は、大きな噴石落下孔の内面であった。最大の噴石落下孔は、目測で斜面なりに約40m、水平方向約15mであった。この区域の樹種は、大半がブナであった。伐採株は、概算で約100株、切株の直径は最大で約80cm、年輪数は概算で80以上あった。なお、そくほう 813号で報告した年輪数の測定は、現地に「水の入ったペットボトル」「金属定規」「マクロレンズ（偏光フィルター付）」を持参して、一眼レフデジカメで明瞭かつ高解像度の写真を撮影し、自宅のパソコンで写真から年輪を数えたものである。

話は戻って、この避難道区は、斜面傾斜が30～45度もある。緊急退避時には、レストハウスから短時間に大量の人が移動する。私は、この斜面に「大量移動可能な道幅を確保し斜面崩壊や落石の危険性を解消した避難道」を建設するのは極めて困難と考える。

話は飛ぶが、私は火山地質学が専門で、樹木・土壌・鳥類・法規などは詳しくない。10月上旬、そくほう 813号の記事を知人に配ったところ、貴重なご意見を賜った。ご意見は「掲載写真の樹木はブナではない」であった。私の写真選定基準は「状況が明確にわかる」かつ「インパクトのある写真」である。この基準で伐採樹木の写真を選んだ。指摘があったため、すぐにその方へ「現地で撮影した樹木の写真」を6枚送った。回答は「6枚とも樹種はブナである」であった。さらに、そくほう 813号の写真の樹木は「オノオレカンバであろう」であった。ここに訂正させていただく。なお、この経緯を踏まえ、10月20日の現地調査では樹種にも注目して歩いた。分かったことは、赤埴林道西端部から西約200m付近までの区域は「ブナもあるがカンバ系の樹木が多い」、西約200mから西約400m付近の区域は「ブナが多いがカンバ系の樹木もある」、西約400m付近から国体リフト基地までの区域は「ほとんどがブナ」ということである。また、そくほう 813号で、この伐採区域の直径約20cm以上の切株数は403と報告した。今回の経緯を踏まえて、春の調査の写真（総数約3000枚）を見直した。その結果、切株の「表皮」から、樹種は大半がブナで、5～10%がカンバ他と判断した。従って、この区域の直径約20cm以上の切株の総数は約500、その内「ブナ」は約450となる。

余談となるが、私は「会津テラス計画地の調査」および「福島原発事故の山岳地域の調査」から「自然観察は、多分野の情報から総合的に判断する必要がある」と痛切に感じている。人生の終焉に近づいても気づくことは多い。私の場合、数年前までは実際にブナの木を見ても、樹種がブナとはわからなかった。研究を深めるには、専門以外の事も学び、視野を広くする必要があるとつくづく感じている。（2024.10.26 福島支部 千葉茂樹）



— そくほう No.815 —

2024年12月1日発行（毎月1回1日発行）

編集 地学団体研究会全国運営委員会事務局

〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-16-6 古峯ビル402

Email: chidanken@tokyo.email.ne.jp

郵便振替 00160 - 2 - 144318 地学団体研究会

発行 地学団体研究会

TEL: 03 - 3983 - 3378

FAX: 03 - 3983 - 7525

https://www.chidanken.jp